



地球環境行動会議

GEA国際会議2024

GEA International Conference 2024

2024年10月23日・24日開催

脱炭素とSDGsを 同時に実現する施策の推進

～気候変動、生物多様性の損失及び
汚染の3つの危機克服を目指して～

Promoting Measures to Simultaneously
Decarbonize and Achieve the SDGs:

*Overcoming the Triple Crisis of Climate Change,
Biodiversity Loss, and Pollution*

GEAとは？

1992年6月にブラジルで開催された国連環境開発会議（UNCED）、いわゆる初めての地球サミットの前年に、モーリス・ストロングUNCED事務局長の要請を受けて、竹下登元首相が中心となり、ジミー・カーター元米国大統領はじめ、国際世論に影響力のある有識者を東京に集めて、国際会議「地球環境賢人会議」を開催したことからスタート。当該会議開催に尽力した日本側の有力者・超党派国会議員・経済界・学会等をメンバーに、竹下登元首相が発起人となって発足したNGOである。GEAは、定期的に、世界のトップレベルの研究機関や国際機関の方々、また国際世論の形成に影響力のある方々の参加のもと、国際会議を開催し、世界の危機的な環境の状況を明らかにすると共に、会議で採択された提言を世界に向けて発信している。

概要

名称	脱炭素とSDGsを同時に実現する施策の推進 ～気候変動、生物多様性の損失及び汚染の3つの危機克服を目指して～
期日	2024年10月23日（水）・24日（木）
会場	東京プリンスホテル 2F「鳳凰の間・プロビデンスホール」 〒105-8560 東京都港区芝公園3-3-1 TEL:03-3432-1111
主催	地球環境行動会議（GEA）
共催	外務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省



参加者リスト

基調講演



ジム・スキー

気候変動に関する政府間パネル(IPCC) 議長

全体議長



竹本 和彦

東京大学未来ビジョン研究センター
シニアリサーチフェロー
一般社団法人海外環境協力センター 理事長

セッション1



高村 ゆかり

東京大学未来ビジョン研究センター 教授



山崎 徹

山陰合同銀行 取締役頭取



上定 昭仁

松江市長(島根県)



三宅 香

三井住友信託銀行 ESGソリューション
企画推進部 フェロー役員



加藤 敬太

積水化学工業株式会社 代表取締役社長



松永 恒雄

国立環境研究所地球システム領域
衛星観測センター センター長

セッション2



中静 透

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 理事長



カレン・リップス

国際応用システム分析研究所(IIASA) 副所長



吉田 正人

筑波大学 名誉教授



トーマス・カストナー

ゼンケンベルク生物多様性気候研究センター
シニアサイエンティスト



飯塚 優子

住友林業株式会社 サステナビリティ推進部長

セッション3



スチャナ(アップル)・チャヴァーニ

チュラロンコン大学理学部海洋科学科 教授



ルイス・バジャース・バルディビエソ

プラスチック汚染に関する政府間交渉委員会
(INC) 議長
駐英エクアドル大使



小島 道一

日本貿易振興機構 (JETRO)
アジア経済研究所新領域研究センター
上席主任研究員



東海 正

東京海洋大学 名誉教授



ドラホミラ・マンディコヴァ

アサヒグループホールディングス株式会社
グループ・チーフ・サステナビリティ・オフィサー

セッション4



高橋 康夫

公益財団法人地球環境戦略研究機関 (IGES)
特別政策アドバイザー



テチェン・ツェリン

国連環境計画 (UNEP)
アジア太平洋地域事務所 (ROAP) 所長兼代表



ダイアナ・ウルジュ-ボルサッツ

中央ヨーロッパ大学 (CEU) 環境科学・政策学部
教授
IPCC副議長



蟹江 憲史

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 教授
慶應義塾大学 SFC研究所xSDG・ラボ 代表



見宮 美早

国際協力機構 (JICA)
サステナビリティ推進特命審議役

討議参加者

アルファベット順



青山 幸恭

総合警備保障株式会社
特別顧問



広中 和歌子

GEA相談役、
元環境庁長官



小林 光

元環境省事務次官、
元慶應義塾大学院
教授 (SFC)、
元東京大学客員教授



増田 厚司

(株)アミカテラ
代表取締役会長



佐藤 裕久

株式会社バルニバービ
代表取締役会長



清水 嘉与子

GEA顧問、
元環境庁長官



武内 和彦

GEA顧問
公益財団法人
地球環境戦略研究機関
(IGES) 理事長

プログラム

1日目 | 2024年10月23日(水)

10:00~12:00

開会式 2F「鳳凰の間」

会長挨拶	山口 俊一	地球環境行動会議(GEA) 会長、衆議院議員、元内閣府特命担当大臣
天皇陛下おことば		
来賓挨拶	石破 茂	内閣総理大臣
基調講演	ジム・スキー	気候変動に関する政府間パネル(IPCC) 議長

12:15~13:10

昼食会 2F「マグノリアホール」

挨拶	青木 一彦 浅尾 慶一郎 庄子 賢一 竹内 真二	GEA事務総局長、参議院議員、内閣官房副長官 環境大臣 農林水産大臣政務官 経済産業大臣政務官
----	-----------------------------------	--

【全体会合】

2F「プロビデンスホール」

13:15~15:45

セッション1:脱炭素社会に向けた戦略的取組

開会の辞:全体議長	竹本 和彦	東京大学未来ビジョン研究センター シニアリサーチフェロー 一般社団法人海外環境協力センター 理事長
セッション議長	高村 ゆかり	東京大学未来ビジョン研究センター 教授
プレゼンテーション	山崎 徹 上定 昭仁 三宅 香 加藤 敬太 松永 恒雄	山陰合同銀行 取締役頭取 松江市長(島根県) 三井住友信託銀行 ESGソリューション企画推進部 フェロー役員 積水化学工業株式会社 代表取締役社長 国立環境研究所地球システム領域衛星観測センター センター長
ディスカッサント	ジム・スキー	IPCC議長

15:45~16:15

コーヒーブレイク

16:15~18:15

セッション2:生物多様性の損失への対処

セッション議長	中静 透	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 理事長
プレゼンテーション	カレン・リップス 吉田 正人 トーマス・カストナー 飯塚 優子	国際応用システム分析研究所(IIASA) 副所長 筑波大学 名誉教授 ゼンケンベルク生物多様性気候研究センター シニアサイエンティスト 住友林業株式会社 サステナビリティ推進部長

19:00~20:30

外務省主催ウェルカムレセプション 飯倉公館(立食)

挨拶	穂坂 泰 武内 和彦	外務大臣政務官 GEA顧問、公益財団法人地球環境戦略研究機関(IGES) 理事長
----	---------------	---

【全体会合】 2F「プロビデンスホール」

9:30~11:45

セッション3:海洋プラスチック汚染問題への対応

セッション議長 スチャナ(アップル)・チャヴァーニ
チュラロンコン大学理学部海洋科学科 教授

プレゼンテーション ルイス・バジャス・バルディビエソ
プラスチック汚染に関する政府間交渉委員会(INC) 議長
駐英エクアドル大使

小島 道一 日本貿易振興機構(JETRO)アジア経済研究所新領域研究センター
上席主任研究員

東海 正 東京海洋大学 名誉教授

ドラホミラ・マンディコヴァ
アサヒグループホールディングス株式会社
グループ・チーフ・サステナビリティ・オフィサー

12:00~13:00

昼食会 2F「マグノリアホール」(指定席)

挨拶 本田 顕子 文部科学大臣政務官
こやり 隆史 国土交通大臣政務官

13:15~15:45

セッション4:各種対策のシナジー(相乗効果)とトレードオフ

セッション議長 高橋 康夫 公益財団法人地球環境戦略研究機関(IGES) 特別政策アドバイザー

プレゼンテーション デチェン・ツェリン
国連環境計画(UNEP)アジア太平洋地域事務所(ROAP) 所長兼代表

ダイアナ・ウルジュ・ボルサツ
中央ヨーロッパ大学(CEU)環境科学・政策学部 教授
IPCC副議長

蟹江 憲史 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 教授
慶應義塾大学 SFC研究所xSDG・ラボ 代表

見宮 美早 国際協力機構(JICA) サステナビリティ推進特命審議役

15:45~16:15

コーヒーブレイク

16:15~17:45

総括セッション

全体議長 竹本 和彦 東京大学未来ビジョン研究センター シニアリサーチフェロー
一般社団法人海外環境協力センター 理事長

第1~第4セッション議長からの報告

自由討論

議長総括

閉会

18:00~19:30

フェアウェルレセプション 2F「マグノリアホール」(立食)

挨拶:全体議長 竹本 和彦 東京大学未来ビジョン研究センター シニアリサーチフェロー
一般社団法人海外環境協力センター 理事長

地球環境行動会議実行委員

会長

山口 俊一 衆議院議員
元内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策、
科学技術政策、宇宙政策）

会長代理

小淵 優子 衆議院議員、元経済産業大臣

顧問

村山 富市 元内閣総理大臣
清水 嘉与子 元環境庁長官、GEA前事務総局長
松本 吉郎 (公社)日本医師会 会長
藏内 勇夫 (公社)日本獣医師会 会長
武内 和彦 公益財団法人 地球環境戦略研究機関 理事長

海外顧問

ジミー・カーター 第39代アメリカ合衆国大統領
ホセ・マリア・フィゲーレス
コスタ・リカ共和国元大統領

相談役

広中 和歌子 元環境庁長官、GEA元事務総局長

副会長

猪口 邦子 参議院議員
元内閣府特命担当大臣
(少子化対策・男女共同参画)
近藤 昭一 衆議院議員、元環境副大臣
遠藤 敬 衆議院議員
若松 謙維 参議院議員、元復興副大臣

事務総局長

青木 一彦 参議院議員、内閣官房副長官
元国土交通副大臣

委員 (50音順)

青山 幸恭 総合警備保障(株) 特別顧問
東 祥三 千葉科学大学学長、GEA元副会長
井上 信治 衆議院議員、元国際博覧会担当大臣
元内閣府特命担当大臣
加藤 修一 元環境副大臣、GEA元副会長
小池 百合子 東京都知事、元環境大臣
小林 光 元環境省事務次官
元慶應義塾大学院教授(SFC)
元東京大学客員教授
斉藤 鉄夫 衆議院議員、国土交通大臣、元環境大臣
佐藤 裕久 (株)バルニバービ 代表取締役会長
更家 悠介 サラヤ(株) 代表取締役社長

篠原 孝 衆議院議員、元農林水産副大臣
島田 明 日本電信電話(株) 代表取締役社長
自見 庄三郎 元内閣府特命担当大臣（郵政改革・金融）
元郵政大臣
鈴木 俊一 衆議院議員、前財務大臣、元環境大臣
須藤 元 日本ミシュランタイヤ(株) 代表取締役社長
角 和夫 阪急阪神ホールディングス(株) 代表取締役会長
グループCEO
竹本 和彦 東京大学未来ビジョン研究センター
シニア・リサーチ・フェロー
林 幹雄 前衆議院議員、元経済産業大臣
船田 元 衆議院議員、元経済企画庁長官
堀内 容介 積水ハウス(株) 代表取締役 副会長執行役員
増田 厚司 (株)アミカテラ 代表取締役会長
松本 秀一 SGホールディングス(株) 代表取締役社長
三木 圭恵 衆議院議員
柳本 顕 前衆議院議員
山崎 誠 衆議院議員
吉田 淳一 三菱地所(株) 取締役会長

賛助会員

東京ガス(株)
東京電力(株)
東洋羽毛工業(株)
(株)ユニパック

議長総括

GEA国際会議2024は「脱炭素とSDGsを同時に実現する施策の推進～気候変動、生物多様性の損失及び汚染の3つの危機克服を目指して～」と題して、2024年10月23日から24日まで東京で開催された。会議は地球環境行動会議（GEA）の主催、日本国政府（外務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省）の共催で行われ、脱炭素社会に向けた戦略的取組、生物多様性の損失への対処、海洋プラスチック汚染問題への対処、そしてこれらの取組を統合的に推進することを目指す、シナジー（相乗効果）を発揮させトレードオフを最小化する取組について、国際的な議論を一層前進させ、脱炭素化と持続可能な社会の実現に向けた提言を世界に向けて発信していくことを目的とした。

1. 開会式

会議は天皇皇后両陛下御臨席の下、山口俊一GEA会長の主催者挨拶、天皇陛下のおことば、石破茂内閣総理大臣来賓挨拶により開会された。その後気候変動に関する政府間パネル（IPCC）のジム・スキー議長による基調講演が行われた。GEA国際会議2024の全体議長は竹本和彦東京大学未来ビジョン研究センターシニアリサーチフェロー、一般社団法人海外環境協力センター理事長を務めた。

開会挨拶

山口俊一GEA会長は、冒頭、来賓、共催者に主催者を代表して感謝の意を表した。また、本国際会議開催準備に尽力された国内外の関係者への謝辞を述べた。本年始めに能登半島を襲った未曾有の大地震、それに続いた豪雨の被害に触れ、自然の脅威の前には無力であるかを改めて思い知らされたと述べたうえで、今なお復興の途上にある被災地の方々にお見舞いの言葉を述べた。そして、子や孫という次の世代に明るい未来を引き継ぐ責任があるとの強い意志を示し、異常気象をもたらす地球温暖化を止め、脱炭素とSDGsを同時に実現する施策を検討することで、気候変動、生物多様性の損失及び汚染の3つの危機克服を目指すという会議のメインテーマについて言及した。地球環境問題解決に取り組む登壇者たちが国内外から参集したことに改めて感謝の意を表するとともに、国際世論を動かす討論や施策の提案への期待を表明した。



おことば

天皇陛下からおことばを賜った。陛下は、世界各地における台風やハリケーンなどによる暴風雨や洪水、深刻な干ばつや大規模な山火事などの災害、そして日本での猛暑や大雨による被害について触れた上で、2023年の世界の年平均気温が観測史上最も高かったという世界気象機関の報告について言及された。また、気候変動と、人類史上かつてない速度で進む生物多様性の損失、そして深刻化する汚染が相互に関わり合っていると述べられた上で、地球環境問題に対処し、かけがえのない地球を守り、将来の世代へ引き継いでいくことは、私たちが取り組むべき喫緊の課題であり、私たち一人ひとりが地球の未来を考えて、どのように行動していくのかが問われると述べられた。さらに、2015年に国連で採択された持続可能な開発目標（SDGs）、本会議のひと月前に開催された国連未来サミットに触れ、持続可能な経済・社会への変革に向けては、複数の課題を統合的に解決することを目指し、相乗効果・シナジーを発揮させるような取組を地球規模で進めていくことが必要とされると指摘された。そうした流れの中にある本会議は、持続可能な社会の構築に向けて、私たちが国や立場の違いを乗り越えて協力し合うために、世界の叡智を結集する貴重な機会であり、私たち人類と私たちの子孫、地球上のすべての生命が、末永く地球環境の恵みを享受できる未来への大切な一歩となることを期待すると述べられた。



内閣総理大臣来賓挨拶

石破茂内閣総理大臣は、日本が議長を務めた昨年のG7広島サミットにおいても、我々の地球が気候変動、生物多様性の損失及び汚染という3つの世界的危機に直面しているという認識を各国首脳と共有したことに言及したうえで、日本がこれらの課題に先進的に取り組み、牽引していくと述べた。気候変動分野では、グリーン・トランスフォーメーション実現のための「GX2040ビジョン」を取りまとめるとともに、「エネルギー基本計画」及び「地球温暖化対策計画」を改定し、日本のネット・ゼロへの道筋を示していくこと、国際的には、ラオスにおいて総理が議長を務めた「アジア・ゼロエミッション共同体首脳会合」において、アジアの「脱炭素化・経済成長・エネルギー安全保障」を同時に実現すべく、「今後10年のためのアクションプラン」を含む共同声明に合意したことを報告した。生物多様性に関しては、生物多様性の損失を止め反転させる「ネイチャーポジティブ」の実現の重要性に触れ、「地域における生物の多様性の増進のための活動の促進等に関する法律」を活用し、民間等による生物多様性の保全区域である「自然共生サイト」の認定・支援を進め、国土の30%以上を保全する「30 by 30目標」の達成に向けた取り組みを加速すると述べた。そして、汚染に関しては、国際的にプラスチック汚染の条約策定の議論を日本が牽引していくと述べつつ、国内においては環境汚染への対応だけでなく、日本の新たな成長と地方創生の起爆剤となる可能性を秘めている循環経済への移行を推進すべく、「令和の地産地消モデル」の推進や太陽光パネルのリサイクル促進のための制度整備など、具体的な政策パッケージを取りまとめると述べた。最後に、本年3月に開催された国連環境総会において日本が「シナジーの促進に関する決議」を提案し、採択されたことにも触れ、この決議の実施を国際社会とともに国の内外で推進し、3つの世界的危機の統合的な解決に向けた取り組みをリードすると述べた。



基調講演(ジム・スキー氏)

ジム・スキー気候変動に関する政府間パネル(IPCC)議長は、第6次評価サイクルの成果について、パリ協定の3つの目標に沿って報告した。また、気候変動対策と持続可能な開発課題間の相互関係とシナジーを意識した各国政府による取組の重要性と、第7次評価サイクルに向けた計画についても触れつつ、下記の点を中心に講演した。

- パリ協定の目標1(気温上昇の抑止)に対して、現在の「国が決定する貢献」(NDC: 国が5年ごとに提出・更新する義務がある温室効果ガスの排出削減目標)の達成だけでは気温上昇を1.5℃に抑えることはできず、温室効果ガス排出量の削減が必須である。風力及び太陽光エネルギーは、2030年までの排出量削減を可能にする可能性が最も高い手段として期待されている。また、2050年までに排出量を40~70%削減できると試算されている需要側の削減対策も重要である。
- パリ協定の目標2(気候変動に対する強靭性(レジリエンス)の向上)に関して、温暖化による熱や湿度の上昇とその組み合わせは、人間の健康への深刻な影響を及ぼし得る。気候変動によるリスクを軽減する適応策は確実に増加しているが、依然として実施は不十分であり、特に低所得層において、必要な適応行動と実際の行動とのギャップが顕著となっている。
- パリ協定の目標3(資金の流れの適合)に関して、気候資金の適応策への割り当ては4~8%に留まり、その90%以上を公的資金が占めている。先進国から開発途上国への資金動員の拡大が必要であり、特にリスクを軽減する仕組みの構築と民間資金の動員強化が求められる。
- 持続可能な開発と貧困撲滅という観点から、IPCCの第6次評価報告書では、気候変動対策とSDGsの相互関係が体系的に分析されている。短期的には、気候変動の緩和・適応策は、SDGsと多大なシナジーを創出する。その具体例として、電気自動車や水素燃料電池自動車の導入・普及が都市の大気を改善し、人々の健康改善に貢献することが挙げられる。他方で、バイオエネルギーの生産による大規模土地利用の変化によるSDG 2(食料安全保障)やSDG 15(生物多様性)への悪影響といった、トレードオフの可能性についても注意が必要である。



- IPCCの第7次評価サイクルでは、従来通りの3つの作業部会による報告書に加え、「気候変動と都市に関する特別報告書」が2027年に作成される予定である。また、短寿命気候強制因子排出量の算定方法や、二酸化炭素除去技術、二酸化炭素の回収、活用、貯蔵による排出・吸収量の算定方法に関する報告書の作成も予定されている。統合報告書は2029年までに発表される見込みである。

最後に、悲観的なメッセージに絶望してはならず、未来は我々の手の中にあることを忘れてはならないと強調し、気候変動対策への強い意志と行動を促した。



2. テーマ別セッション

テーマ別セッションでは、次の4つのテーマごとに集中的議論が行われ、それら議論は、下記に示す主要項目ごとに総括されるが、その詳細は、GEA公式ホームページ上に掲載される予定である。

1 脱炭素社会に向けた戦略的取組

- 1.5°C目標をめざす世界・日本の戦略
- 2050年カーボンニュートラルと今後の10年
- 自治体、地域、中小企業を含む企業、金融機関、住民の取組の加速
- 衛星データを活用した温室効果ガス排出量のモニタリング



2 生物多様性の損失への対処

- 昆明・モンリオール生物多様性枠組2030年ミッション「ネイチャーポジティブ」
- 30 by 30目標
- 持続可能な農林水産業とレジリエントな食料システムと食料安全保障
- ビジネスの生物多様性への影響と持続可能な消費



3 海洋プラスチック汚染問題への対応

- プラスチック汚染の状況
- データ管理・調和の重要性
- 途上国の抱える課題と国際協力の役割
- プラスチック汚染対策としての循環経済の推進
- 効果的なグローバルなプラスチック条約とその実施に向けて



4 各種対策のシナジー（相乗効果）とトレードオフ

- グローバルレベルでシナジーに取り組む意義・必要性
- 省庁横断的な協力と政策統合の推進
- シナジーの実践を拡大するための方策





3. 総括及び謝辞

全体議長による司会進行のもと、各セッション議長によるテーマ別セッションでの議論ポイントの報告を受け、GEA実行委員メンバーと登壇者全員による議論の深化が行われた。本会議における議論の結果は、GEA公式ホームページ上に掲載される予定である。

会議の閉会にあたり全体議長から、速やかに議論の成果を取りまとめた上で、来月アゼルバイジャン・バクーで開催される国連気候変動枠組条約 (UNFCCC) 第29回締約国会議 (COP29) や、同じく来月に韓国・釜山で開催予定のプラスチック汚染に関する法的拘束力のある国際文書 (条約) の策定に向けた第5回政府間交渉委員会 (INC-5) 等の国際的な議論の場に届けていきたいとの発言があった。最後に、各セッションでの時宜に即した活発な議論に感謝の意を示すとともに、会議の参画・取りまとめに尽力されたGEA実行委員メンバー及びGEA事務局、国内外からの登壇者・参加者及び円滑な会議運営に尽力したすべての関係者に対する謝意が表明された。

2024年10月24日
GEA国際会議2024全体議長
竹本和彦

会議の結果の詳細はQRコードよりご覧ください。



地球環境行動会議

地球環境行動会議事務局

〒105-0003 東京都港区西新橋1-14-2 新橋SYビル4F (公財) 地球環境戦略研究機関内
TEL: 03-3595-1081 Fax: 03-3595-1084 Email: gea@gea.or.jp